

2・3月の園だより



「このお団子を食べると一年間風邪をひかないよ！」 どんど焼き（1月15日）

今日はどんど焼き。“一年の無病息災を祈り健康で過ごせますように”と道祖神の火で焼いた団子を頂きました。この団子を刺した木は、15年ほど前に、小倉橋付近の梅林からトラックで運んできたものです。ちょうど梅の枝が大きく伸びて伐採していたため話をし、快く頂いたものです。こういったすらっとした梅の木は、なかなか手に入らないもので、子ども達が火で焼いているときも、あまり焦がさない様に注意してみています。子どもも、自分が焼いている団子が、枝の先が焼けて火の中に入ってしまうのは、嫌らしく、真剣に園長の言葉を聞いてくれます。医療も発展していない古き時代は、幼い子を病で失うことが多かったため、当時の人々は、きっと祈るような気持ちでこの道祖神の火に願いを込めて、団子を食べたことでしょう。

物が豊かになり、物を大切にする気持ちが薄れていく時代だからこそ、こういった伝習文化の一端は、大切にして子どもたちに伝えていきたいと思います。毎年都市化が進み、たき火などをやりにくい環境になっていますが、地域の方のご協力を頂きながら続けていきたいと思っています。 園長

INDEX

◇目次	1
◇園長のことば	2
◇2.3月生まれのお友達	6
◇なかつ通信	8
◇クラス通信（年長、ひまわり、ふじ組）	10
◇クラス通信（年中、さくら、すみれ組、年少、たんぽぽ組）	14
◇中津だより2.3月号、2月学年便り	別紙
◇味噌作り体験教室のご案内・役員係り選出について	別紙

インフルエンザの流行

寒さが最も厳しくなる大寒（1月20日）は寒（小寒 - 立春前日）の中日、一年で最も寒い時期です。武道では、このころ寒稽古が行われますが映像などで、みていると背中がぞくぞくしますね。やはり気合を入れ心身統一することで、風邪にかかりにくい丈夫な身体の育成になるのでしょうか。

病気に負けない強い身体を作りたいのは、誰もが願うところですね。しかしながらいくら身体を鍛えても、インフルエンザは別の次元のものなので、この乾燥が長く続く冬季は、猛威をふるっています。

厚生労働省によりますと、今月13日までの1週間のインフルエンザの推計患者数は、およそ163万5000人で、前週に比べて2.8倍と急増したそうです。1つの医療機関あたりの患者数が最も多いのは愛知県で、75.38人、続いて熊本県が58.79人などとなっていて、42の都道府県で1医療機関あたりの患者数が30人以上となる「警報レベル」に達したとのこと。今後、患者数はさらに増える見込みで、厚生労働省は手洗いの徹底やマスクの着用などを呼びかけています。

神奈川県は17日、インフルエンザの患者発生数が県内で増加していることを受け、インフルエンザ流行警報を発令しました。県健康危機管理課によると、定点観測している県内345の医療機関で、1月第2週（7～13日）の1医療機関当たりの患者報告数が36.50となり警報の基準値（30）を超えました。昨季は昨年1月第3週に基準値を上回り、同月25日に発令しました。

地域別（保健所管内）では、**厚木の55.38が最多**で、**秦野の42.70**、**大和の38.27**が続いています。

インフルエンザは、感染している人の咳やくしゃみに含まれるウイルスを直接吸い込んだり、ウイルスが付着した手で目、鼻、口を触れたりすることによって感染し、一般的な風邪より症状が重くなります。小児や高齢者の重症化や合併症を防ぐためには、インフルエンザワクチンの接種が有効です。接種希望の方は、お早めにかかりつけの医療機関にご相談ください。また、手洗い・うがい、くしゃみ・咳エチケットを心がけましょう。



保育日数も残り僅かしかありませんので、睡眠、栄養、休養を充分にとり、うがいや手洗いを徹底する。流行させないためにも、熱が出た時は早めに病院等で診察するなど、ご家庭に置かれても予防対策をよろしくをお願いします。

表現発表会を通して完成の学期を

さて、幼稚園では、3学期を「完成の学期」として位置づけ、表現遊び発表会を通して、大きく成長してほしいと願っています。この活動では、一年を通して培ってきたクラスの仲間との絆をさらに深め、気持ちを一つにして、音楽を感じながら表現することの楽しさを実感していきます。その過程では、道具の準備、間の取り方、声のトーン、役の心情表現、空間の捉え方など、常に仲間と協力すること、助け合うこと、けじめをつけることの大切さ、どう演じるのが素晴らしいのか、など様々なことを学んでいきます。手や足、顔の表情一つと



っても、学年によって、これだけ違ってくるのかという子どもの成長過程（なりきると、演じる）の違いも、ご覧いただけると幸いです。



そして達成感や充実感は、一生懸命に本気で取り組むことを経てこそ、真に実感できること、一人で演じるだけでなく、友達がいたからこそ、演じる（なりきる）ことは楽しいこと、クラスの仲間と共に考え工夫し、先生と呼吸を合わせて作り上げていく中で、自己表現をすることが、こんなにも気持ちのいいこと…などをこの表現活動を通して、子ども達に学んでほしいと願っています。この活動は、11月から少しずつ実施してきました。運動遊びも造形遊び（月間）も、そうですが、一つの課題を長い時間かけて

少しずつ作っていく中で、多くの学びがそこにあります。それは、失敗しても試行錯誤を繰り返しながら、その課題を少しずつ良くしていくようなもので、子ども自身がそれに気づき、自らその試行錯誤の経験値を高めて、課題を克服し、最終的には自分で納得して解決することです。こういった意味では、この失敗も、さらにより良くするという捉え方になり、失敗とはいえませんね。より良くするための一つの課題なようなものです。

例えば、「アルプスの少女ハイジ」で、ハイジがホームシックのため、夢遊病のようにさまようシーンがあります。その様子に気づいたクララは、ハイジは、アルプスに戻るべきだと考え、そのことをハイジに伝えたクララは、心配させまいと自力で歩こうとします。

夢遊病という、普段あまり耳にしない病気についても、子ども達に、その場면을想像してもらいながら、“夢遊病は、寝ながら、歩いて、静かにふらふらするんだよ”と伝え、イメージを広げて

もらいます。また、心配させないで、クララが何とか歩こうとするシーンでは、少しずつ、本当に少しずつ、足をいたわりながら、転んでは立ちを繰り返し、ハイジと一緒に助け合って歩いていきます。

そういう時に、いつも自分がどう動いたらいいのか？なぜそう動かないといけないか？など、役を演じながら子どもたちに考えてもらいながら、進めていきます。時には、それと似たような場面で、仲間が一人だけポツンと、取り残されて泣いてしまうことがあります。その泣いている子の涙をみて、友達が、「あー、かわいそうなことをしちゃった。ごめんね」、などと、一人ぼっちにしたことを、そこにいた仲間の子もたちが、その子にあやまり、共感しながら作り上げていくことがあります。この可哀想なことをした、という感情は、頭で教えても伝わるものではなく、その場にいた仲



間も一人だけポツンと、取り残されて泣いてしまうことがあります。その泣いている子の涙をみて、友達が、「あー、かわいそうなことをしちゃった。ごめんね」、などと、一人ぼっちにしたことを、そこにいた仲間の子もたちが、その子にあやまり、共感しながら作り上げていくことがあります。この可哀想なことをした、という感情は、頭で教えても伝わるものではなく、その場にいた仲



間が、心で感じてこそ伝わるものです。こういった気持ちを深く心に受け止めたとき、子ども達の中には、仲間意識がしっかりと芽生え、同じようなことは、起こりにくくなります。最初から、人数の確認もして、どう対応すればいいのかを、自ら考えて行動するようになります。

今自分が、どういう立ち位置でどう行動すればいいのか、まさに、自ら考えて行動できる子に育ちます。無論担任は、泣くかもしれないという予測はつきますが、あえて、そういう状態において、子どもたちに考える環境を提供するのも、時には大切なことと感じます。すべて担任が用意したレールの上だけで、物事が進むほど単純ではないからです。いろんな問題点が出て、それをみなで考えてどうするか、解決の曙光を見出す過程が、すなわち、この



表現発表会の場を、どういう目的で、何を目指して教育の中に位置づけ、その過程で、子どもと何を学び合う場にするかはとても大切なことです。

子どもたちは、この役をどう演じたら、その役柄に見えるかを、かなり真剣に考えて演じています（年長）。表現を作る過程での子ども達とのやり取りがあってこそ、皆が主人公となるのであり、ミニミニ発表会では、約10日間程度で、すべての子が、役柄を総入れ替えしてまた演じてくれます。



それは、その過程で、常に皆が考えて作り上げたからこそ、他の役柄も演じられるのです。

本園での発表は、素敵な照明も、きれいな衣装もありませんが、それだからこそ、子ども達の真剣に演じる表現に価値が大きくなると信じています。きれいな衣装で一見豪華に見える活動の中に、特定の子しか主人公になれない、脇役の子と主人公の子の出番の過多などの不公平が出る、役柄によっては、周りの子から嫌なことを言われたなど、本園でも昔、見栄えを重視し、役を固定して、先生の指導の強い発表会の時は、そういうことがありました。しかし、今のような表現発表活動になってからは、先生の弾くピアノの音楽を聞いて、その中に、ドラマ性を感じて演じ、主人公の心情表現を、その子なりに解釈し自分自身の感じた表現をそれぞれ演じてくれるようになりました。発表会当日は、多くの子が、“僕の、私の を見て”と自信をもって表現をしてくれることでしょう。「今日は今日の表現です。明日は明日でまた違います。」その日の輝きをぜひカメラのレンズを通してではなく、しっかりと目に焼き付けて頂きたいです。子ども達の個性ある豊かな表現できつ



と多くの保護者の涙を誘ってくれることと思います。どうぞ楽しみにして下さい。 園長



親子ふれあい味噌作り体験教室のご案内

中津幼稚園では、親子のふれあい交流事業として、3月9日（土）10時から2時まで愛川町中津公民館（レディースプラザ）で味噌作り体験教室を開催します。詳細は別紙で配付しておりますので、希望の方はお申し込み下さい。人数に限りがありますので、応募が多数の場合は、抽選で対応させていただきます。

屋根工事の経過

10月21日の台風21号の突風の影響で屋根の修繕を実施していますが、屋根材の加工、製造に時間がかかっております。針葉樹のコンパネの下地をした後、防水用のアスファルトルーフィングをし、その上にガルバリウム材を敷く予定です。



教材のご紹介

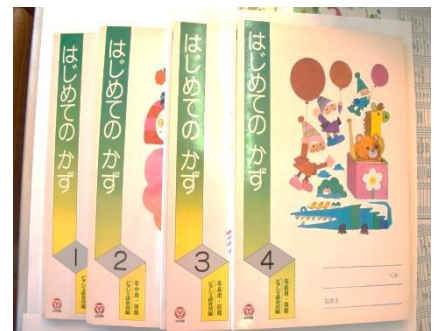
ピアジェの考えをベースに作られたファーストシリーズ

- 「はじめてのかず①」年中前期用（5月から11月）各870円
- 「はじめてのかず②」年中後期用（12月から3月）（消費税込み）
- 「はじめてのかず③」年長前期用（5月から11月）
- 「はじめてのかず④」年長後期用（12月から3月）

を次年度も導入することに致しました。

例えば年中後期

12月実施の「単元⑤どんぐり」は、「数の保存性」をテーマにしています。



「同じ数はどのように並べ替えても、また見かけの大きさがどんなに変わっても、その数は変わらないことを知る。」

を子ども達に学んでもらいます。ファーストシリーズは、子ども自身が遊びの中で発見し、試し、確かめる自発的な活動を通して得たゆたかな体験が、目にはみえなくともいつしか思考の奥深くにしっかりと根付いて、お友達と遊ぶとき、表現するとき、そして自然に接するときなど、それらの活動がより実りの多いものとなるようさまざまな基礎能力の芽

生えが培われていくよう編集されています。どうぞお楽しみに。